水無瀬殿の保存を考える実行委員会　　６月 11 日（日）

報告会&講演会のご案内

発行／2023 年５月

島本町桜井は歴史の宝庫。JR 島本駅西土地区画整理事業に伴う文化財調査で明らかになりました。大阪府文化財センター及び島本町教育委員会と合同での 7535㎡の発掘調査では尾山遺跡の青い石の美しい池泉跡（鎌倉時代）や道昭が関わった可能性のある御所池瓦窯跡（飛鳥～鎌倉時代）が発掘されました。しかし、開発工事優先で記録保存にとどまり、遺跡は現地保存に至らず本当に残念です。

その後の御所ケ池南の越谷遺跡の文化財調査（事業者と町教委が実施）にいたっては、これまで後鳥羽上皇の水無瀬離宮の園池の可能性があるとして、歴史学や庭園学、考古学などの研究者が各地から頻繁にこの地を訪れて、島本町に十分な調査を求めてきました。私たちも文化庁・大阪府・島本町に十分な調査の上で保存・活用を求める要望を重ねてきました。ところが 10 月には開発を急ぐあまり、越谷遺跡は調査不十分で打ち切り、埋め戻してしまい、園池の可能性は解明されないままとなりました。

「開発と文化財保存」は行政や歴史研究者および住民にとっても全国の課題であると、今回のことを通し学びました。今後も歴史を大切にするよう取り組んでいきます。

尾山遺跡・池泉跡　島本町 HP より

御所池瓦窯跡・軒瓦島本町 HP より

報告会&講演会のご案内

主催：水無瀬殿の保存を考える実行委員会

□日時／6 月 11 日（日）14 時～16 時（開場 13 時 45 分）

□場所／ふれあいセンター３階 第４学習室

資料代／500円　申込不要　　＊どなたでも参加できます

◇報告　1.水無瀬殿の保存を考える実行委員会活動報告

2.「越谷遺跡調査」に関する「島本町の文化財の調査と保存・活用を求める請願」12 月９日教育委員会請願審査の報告

◇講演会　「源頼朝の永福寺庭園と島本の越谷御所池庭園 ～歴史・文化活かしたしたまちづくり」

講師 前川佳代さん　（奈良女子大学大和・紀伊半島学研究所研究員）

◇会の今後について提案

当会は昨年６月 25 日、市民グループ「環境・歴史・景観しまもと」が呼びかけ、JR 島本駅西地区開発に伴う越谷遺跡の文化財調査に係り、水無瀬殿に関連する文化財の保護・保全活動を目的とし発足しました。

具体的には３回の連続講演会の開催、越谷遺跡の調査に関し専門家と連携し、町教育委員会及び事業者への要望活動、広く住民のみなさんの協力があり、文化財の調査と保存活用を求める請願署名などを行ってきました。連続講演会には計287人の方が参加され、請願署名はわずか 10 日間で 212 人の方の賛同を得て提出することができました。住民のみならず広く全国の方々が、水無瀬離宮関連遺跡に関心を持ち、保存活用を望んでおられることがわかりました。今後はそれらの活動で学んだことを踏まえ、水無瀬離宮を含めて島本町の文化財等から歴史を知り、学び、保存・活用する活動を目的とする会への発展解消に向けて提案をいたします。

講演会を聞きたい、という方も歓迎です。

●212 名の請願者による「島本町の文化財の調査と保存・活用を求める請願」●
12 月 9 日 教育委員会請願審査の報告 ～越谷遺跡の園池遺構をめぐって～

2022 年 12 月 9 日 212 名の請願署名を添えて提出した「島本町の文化財の調査と保存・活用を求める請願」（請願代表者 白藤美穂子）は、教育委員会定例会議にて審査されました。

5 人の教育委員（会長：中村りか教育長 ・高岡理恵委員・西尾一実委員・丸野亨委員・細見知子委員 ）が審査しました。

最初に教育委員会事務局の生涯学習課 木村主査(文化財担当)より、請願事項について説明した後、請願者２名（白藤さん・末岡さん）が 10 分ずつ意見陳述を行いました。

請願事項

1. JR 島本駅西地区の越谷遺跡について、新聞報道の内容を含めた町と有識者による見解の検証と、双方からの納得のいく説明を求めます。そのうえで住民への現地説明会実施を求めます。
2. 水無瀬離宮関連遺跡の調査・保存・活用を求めます
3. 町内の遺跡に説明版を設置し、周回できるような遺跡地図の作成を求めます。

●文化財の保存・活用の大切さを意見陳述●

＊白藤さんの陳述より＊

この請願には、わずか10日間で私を含め賛同した212人もの請願者の願いがこもっている。代表し意見を述べる。島本町駅西側の開発に伴う文化財調査により発掘された尾山遺跡の池泉跡や御所池瓦窯跡は専門家からも高く評価されている。2021 年9月には日本庭園学会より、越谷遺跡の南側に残る「州浜形状」地形は、北側の御所ケ池と一体の池であった可能性、後鳥羽上皇の園池遺構の可能性が示され、緊急発掘調査による検証を求める提言がされた。本格的な発掘調査が始まった 10 月には園池遺構を裏付ける要素として「州浜形状」の地形が自然堆積か人工堆積かその性質を巡って、専門家の調査がスタートしたものの、現地視察した専門家の方々と町の見解は大きく分かれた。

また、地層の年代を決定づける遺物について、 13世紀後半の土器が出たので後鳥羽上皇以降の地層であると聞いたが、その土器を見たのは町の担当者のみで、 池の可能性を指摘した専門家は、誰も見ることができなかった。

越谷遺跡は十分な調査も行わず、町民に対する現地説明会も行うことなく、開発のため埋め戻されてしまった。解明するためにも、関わった専門家や住民に説明され、検討会を行うのが公正であると思う。歴史遺産を活かす町を望む。

＊末岡さんの陳述より＊

文化庁の1998年の「埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化等について」通知に「地下に残る埋蔵文化財の位置と範囲、遺跡の内容・性格などを記録していく必要がある」と書かれている。今回、M 氏（鎌倉時代の庭園の専門家）の「盛り上がりを平面的に掘って、その性格をちゃんと出してください。」という意見に対して、教委はこれを検討することなく、埋め戻し、実際の性格などをきちんと残して把握することできなかったので、さらに再調査をしていただきたい。費用の開発者負担が難しければ、文化庁の文化財緊急調査費国庫補助という制度を使えば、自治体の調査費用の半分が国から補助される。問い合わせた文化庁も「補助事業を活用できる可能性があるので相談してください」と言われた。

文化財保全活用地域計画を作るよう文化庁は言っており、各自治体はやっている。個々の発掘調査を場当たり的に市街地にするという前提で行うと、文化財は残していけない。地域の文化・歴史を踏まえ、今後は文化財をどういうふうに保全し、発掘し、残していくかを中長期的な計画を立てて、文化財を保全・活用していけるよう、島本町もしっかり計画を作っていただきたい。 以上は、文化財行政を担う町教育委員会の意思決定でできることである。

●「この地に池が存在したということは考えられない」 教育委員会事務局の見解●

実質的な審査に入ると、事務局木村主査より「今回の発掘調査の成果」報告の後に「請願事項の事務局の考え」が次のように述べられました。「今回の発掘調査の成果」について「調査では後鳥羽上皇が隠岐に流された後の時代である。水無瀬離宮の庭園に関する池が存在するのではないか、という主張については、池の中に石が敷かれている状況や泥の堆積は確認できていないため、池が存在したとは考えられない。遺跡が存在しているところまでは十分な調査を実施したところであり、更に下層まで確認しているので、事務局の調査書が非難されるということはない」

請願事項	請願事項に対する教育委員会事務局の考え
1	有識者等から御意見を頂きながら発掘調査を実施し、既に現地での検証は十分にできた。報告書で町の見解を公表する。歴史上、重要な発見ではないので現地説明会の開催はしない。
2	水無瀬離宮の解明や観光目的の調査をして遺跡破壊するような行為は文化財保護に外れ実施しない。
3	現状、本町の遺跡で解明できたものがなく説明板の設置予定はない。遺跡地図の作成予定はない。

● 請願は不採択　審査のあり方を考える ●

◇教育委員の質問　2名の意見陳述のあと、遺跡調査を実施した教育委員会文化財担当課の木村主査が請願について説明し、各委員がこれらについて質問を行い議論が進みました。委員からの質問はわずか5件で、そのうち4件は高岡氏からの質問でした。

中でも、特に重要と思われるものは次の2つでした。

●内容が量的に多く資料も十分に読み込む時間が不足した。陳述がこの時期であったのは何か事情があったのか？
→町回答：請願者の要望による〈 ※ 私たちの考える問題点 1）をみてください〉

●陳述人によると土器が出ているが他の人が見ていないという事だが、土器はどのようになっているのか？
→町回答：別の場所に保管しており、その時に見せられなかった

◇請願不採択の理由は次の 3 点に集約されます。

① 今回の情報だけでは判断しかねる ②報告書としてまとまってから検討すればよい ③手続きに沿っており問題なし

◇私たちの考える問題点

1）請願審査の進行という点

各委員がした質問には全て町が答えており請願者に反論の機会が全く与えられない進行であり、なぜ請願者がこの時期に急いで請願を出したのかが全く理解されないまま採決が行われました。請願提出には日程上、問題なかったが、事務局から委員の検討時間が少ないので 1 月に請願審査を延期できないか、と提案がありました。しかし工事が進み遺跡が埋められてからでは請願の意味がない、と判断したからです。請願者にも発言が許されれば、更に委員に考える機会が与えられ、建設的な議論ができた可能性があります。多くの専門家が注目する重要な遺跡が失われたかもしれない、という後味の悪い結論で禍根を残すことは、島本町の歴史遺産を考えるうえで大変残念と言わざるを得ません。

2）継続審査という選択がなかった点

専門家同士で対立する意見があり、科学的な究明をすべきと訴えているにもかかわらず、委員は継続審議にせず、上記のような理由で不採択としたのは、学問的とは言えない。数少ない質問で町の回答に納得するのでは教育委員会事務局の主張におもねていると見られても仕方がありません。

3）将来の調査は実現可能性が乏しい点

町は会議の中で「調査は遺跡を破壊する。そのため、発掘調査は最低限にとどめ、大切に後世引き継いでいかなければならない」と基本姿勢を述べています。一般論としてはそうですが、遺跡の一部は発掘時の不手際により破壊されており、堂々とこのような正論を言えることには驚きました。しかも今回の場所について町は自然堆積であり歴史的に重要性がないと公の場で述べたのです。そのように宣言された場所を後世に誰がお金を出して調査するでしょうか。真に将来のことを考えるならば、今回の専門家同士の対立点をきちんと検証し記録することこそが求められるべきであり、町の見解が唯一であるかのような姿勢は未来を閉ざすものです。

●後日、4 名の専門家の方から、この間の経過や結論について、島本町による発掘に対する問題点の指摘や、この地が歴史的に非常に貴重な場所であること、今後とも地域の人々の関心を高め、歴史文化を大切にする世論を大きくしてほしいというようなコメント（別紙参照）をいただきました。

●島本の地で発見された遺跡が果たしてどれだけの価値のあるものか科学的に追求し、後世に残していきたいという私たちの願いは、あまりにも不十分な審査（といえるほどのものか）で終結してしまいました。このような報告をみなさんにするのは非常に残念です。

当会としては教育委員会の請願についてはどのようなテーマであれ中身のある議論や公正な運営がなされなければいけないと思います。私たちの経験や経緯についてここにご報告し、今後は有意義な議論が教育委員会において展開されることを期待したいと思います。

●遺跡の調査・保存の取り組み　・・・町のうごき・・・ ●

越谷遺跡の調査・保存をめぐり、多くの専門家と住民が声をあげ、関心も広がりました。教育委員会請願もその一つであり、結果は不採択でしたが、私たちは「調査の過程」と「その後の動き」に注目しています。

調査の中で外部の専門家による発掘現場の視察に応じたことは、開かれた文化財行政に向けて扉を開いたといえます。また、今年度、文化財保護審議会に「考古学の専門家」1名が増員されました。文化財の保護及び活用のため専門的見地から意見や助言を行う組織の増員、選任理由として「町にとって水無瀬離宮跡は外せない」ことを理由にあげたことは共に大きな変化です。遺跡保存はかないませんでしたが、小さな兆しの積み重ねが、未来に向けた変化です。文化財の調査と保全を主に担うのは教育委員会ですが、一方で、文化財は住民全体の財産です。住民が歴史を愉しみ、関心を深め、町を後押ししながら文化財保全に参加していくのは理想的なかたちといえます。

歴史・文化財に関する情報コーナー

○『尾山遺跡・御所池瓦窯跡』島本町文化財調査報告書は奈良文化財研究所の全国遺跡報告総覧 HP で見ることができます。⇒https://sitereports.nabunken.go.jp/ja/129946

○役場1階の文化情報コーナーおよび町立図書館に最近刊行の島本町文化財調査報告書（2023 年）の第 44 集～47 集までが置かれています。第 47 集は 2018 年の RIC ホープ保育園建設時の水無瀬離宮跡発掘調査報告書で、ようやくこの 3 月に作成されました。初めて水無瀬神宮敷地内での調査ということですが、水無瀬離宮の建物跡となる遺跡は発掘できなかった、ということです。詳しくは報告書をご覧ください。

◆◆◆……◆◆◆

ご案内

●6 月 25 日　文化財保存全国協議会第53回京都大会●

「都市遺跡を未来につなぐ―遺跡の上で暮らすために―」

●6 月25 日（日）10:00～16:30　立命館大学朱雀キャンパス 1 階多目的室

基調講演　10:10～「遺跡の上で暮らす―歴史都市京都における近現代遺跡の保存と活用を中心に―」
木立雅朗氏（立命館大学教授）

報　告　11:10～「京都における歴史的景観保全の取り組み」
中島　晃氏（弁護士・市民共同法律事務所）

2021 年 11 月に島本町でも高層マンションをテーマに景観保全講演会でお話をしてくださいました。

報　告　14:40～「水無瀬離宮跡を未来に」前川佳代氏
（奈良女子大学　大和・紀伊半島学研究所協力研究員）

越谷遺跡に光をあて専門家の方々と連携し当会の活動に協力していただいている研究者です。

●「環境・歴史・景観しまもと」も本大会を協賛しています。また当日はポスターセッションで参加しています。

●プログラム詳細については文化財保存全国協議会ホームページをご覧ください

●参加費（資料代）1000 円・・会場参加は申込不要　オンライン参加申込 6 月 15 日まで

●問合せ先　文化財保存全国協議会事務局　E-mail：bunzenkyou2021@yahoo.co.jp

当会の活動にもご協力いただいています。

「文化財保存全国協議会 （略称、文全協）は、日本の各地に残されている豊かな文化財を守り、学び、正しく活用して後世に伝えてゆくことを目的とする会です。市民を中心とする遺跡保存の唯一の全国団体として、文全協は日本の文化財保存運動を進めていくと同時に、みなさんが手と手をつないで協力し合い、幅広く運動の連携ができるよう、お手伝いします。」 文全協ホームページ ⇒http://bunzenkyou.jp/

＊入会されたい方はいつでもご連絡ください＊
連絡先／090・2061・8001白藤　Mail：shimamoto_history@outlook.jp
新規会員募集　ニュース随時発行　年会費 1000 円　WEB 発信予定

島本町教育委員会教育長 中村りか 様

島本町の文化財の調査と保存・活用を求める請願

【請願事項】

１．ＪＲ 島本駅西地区の越谷遺跡について、新聞報道の内容を含めた町と有識者による見解の検証と、双方からの納得のいく説明を求めます。そのうえで住民への現地説明会実施を求めます。

２．水無瀬離宮関連遺跡の調査・保存・活用を求めます

３．町内の遺跡に説明版を設置し、周回できるような遺跡地図の作成を求めます。

【請願理由】

島本駅西地区の開発工事に伴う文化財調査では、尾山遺跡の青い石の美しい池泉跡（鎌倉時代）や道昭が関わった可能性のある御所池瓦窯跡（飛鳥時代～奈良時代初期）など重要な遺跡が発掘されていますが、工事が優先され保存するまでには至っておりません。6 月末から開始された越谷遺跡の文化財調査に伴っては、開発事業者が遺跡を破壊するなど看過できないことも起こっています。これは教育委員会の文化財調査の指導が徹底できていれば回避できていました。さらに 11 月 9 日の朝日新聞夕刊の紙面には、越谷遺跡が調査不十分のまま埋め戻しされ、工事が進む予定であることが大きく取り上げられました。

越谷遺跡は、これまでも鎌倉時代の後鳥羽上皇の水無瀬離宮の園池の可能性があるとして、著名な歴史学や庭園学、考古学などの研究者が各地から頻繁にこの地を訪れて、島本町に対して入念な調査を求めてきました。全国から集まった署名簿も町に提出されました。住民および文化財保全を求める団体も文化庁・大阪府・島本町に十分な調査の上で保存・活用を求める要望書を再々提出しています。

しかし開発を急ぐあまりに島本町は文化財調査を打ち切り、埋め戻してしまいました。現場を視察・見学された庭園に詳しい有識者は、深層の遺跡の可能性を指摘し、さらに丁寧な調査を行い園池の可能性を探るべきだと指摘されています。実施された調査は越谷遺跡の全貌を解明する上では、非常に不十分な調査となり、記録保存できたとは到底言えません。このままでは、日本の共有財産である歴史遺産が失われてしまいます。

つきましては越谷遺跡の朝日新聞記事に取り上げられた内容について、町と有識者による検証を実施し、住民への説明会を求める請願をします。

また、町内に点在する遺跡についても調査だけで終わらず、保存活用の道をさぐり、その一環として遺跡の説明版や周遊ルートの提案など、文化的歴史的に豊かな島本町をつくるよう求めます。

専門家の方々のコメント

日本庭園学会として最初に提言を行った時から、水無瀬離宮の保存について要望してきました。しかしながら、町は開発に伴い発掘調査をするのみで、自主的に保存のための調査を進めていません。このままでは、水無瀬離宮という遺跡は水無瀬神宮しか残らず、全てが消滅します。町が早急に予算をつけて発掘調査を継続して行い、遺跡の範囲、内容を明らかにして保護に向けて努力すべきです。

100 年後、水無瀬離宮という史跡をこの世に遺すことが現代の私たちの責務だと考えます。そのくらい、日本の歴史にとって重要な史跡であると思います。

日本庭園学会会長　大澤伸啓

重要なことは、この町は周辺の山を含め、中世的景観をよく残した一つの小宇宙だな、ということです。今ならまだ間に合うので、文化財を整備すれば実に強力な観光資源になると思います。ところが、町当局はその価値を全く理解していないので、どんどんどんどん無軌道な開発を許してしまっている。発掘調査に関しても、面を精査し、遺構を検出して掘り上げる、という発掘の当たり前のことができていない。驚いたことに、遺物が含まれていて明らかに人為的な盛り土を自然堆積と言い立て、掘り上げればきれいな洲浜になるのに、その形を出さないまま掘り下げている。はっきり言って、これを自然堆積という人はどうかしていると思います。この調査現場には文化財に対する行政の姿勢の脆弱さが象徴的に出ている。

残念ながら、洲浜の先端は発掘で壊されてしまいましたが、苑地全体で見ればほんの一部に過ぎません。この先、町当局は 歴史的な景観の保護に覚悟を持って当たってほしい。苑地を復元し、史跡公園として整備すれば観光の起爆剤になるはずです。

一般社団法人　鎌倉・中世文化研究センター理事／日本女子大学非常勤講師(当時) 馬淵和雄

越谷遺跡についていえば、開発の対象となる土地が園池であるかどうか判断できる調査が不可欠である。岬状の洲浜地形が地表に表れていた段階で、まずはこの地形が庭園の意匠かどうか確かめるべきであった。さらに、池の汀から池底にかけて地業や護岸の有無を見極める必要があったであろう。

島本町は庭園調査で豊富な実績がある奈良文化財研究所や京都市埋蔵文化財研究所等に近く、指導を受ける専門家が身近にいる土地柄であり、実際、同開発事業対象区域の尾山遺跡などの調査では専門家の指導を受けている。開発が計画された段階で指導・相談を受ける体制を整えることも可能だったのではないか。

こうした経験を踏まえるならば、越谷遺跡にとどまらず水無瀬神宮を中心とした広瀬遺跡とその周辺についても開発ごとの場当たり的な対応ではなく、有識者による水無瀬離宮関連遺跡群の発掘調査指導委員会を組織し学術調査を継続すること。その上で、水無瀬離宮関連遺跡群をどのように保存・活用していくか検討する必要があろう。

奈良女子大学協力研究員　前川佳代・日本庭園学会理事　足立佳代

教育委員会定例会では、水無瀬離宮関連遺跡等の文化財を積極的に守って行く姿勢が見られないのが残念です。

これまで地元の皆さんが貴重な文化財を宣伝活動、署名活動や講演会等を精力的に進めてこられました。このことによって、今はまだ対行政において目立った成果にはなっていませんが、確実に町民の皆さんの文化財（水無瀬離宮関連遺跡等）への関心は高まってきています。

これからも、幅広い町民の皆さんの関心を高め、歴史、文化を大切にする町の世論を大きくしていくことが大切だと考えます。引き続き協力させていただきます。

文化財保存全国協議会常任委員　小貫充